



西浮通信

令和5年6月30日
NO. 393
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

副校長 富田 暁子

令和5年度がスタートしてから、6年生はこころの劇場や音楽鑑賞教室、5年生は岩井自然体験教室がありました。文化や芸術に親しんだり、豊かな自然に触れ、友達と生活を共にしたりする中で、学校ではできない多くの経験を積むことができました。また、西うきフェスティバルが多くの保護者の方、地域の方に参加いただきながら開催することができ、子供たちの工夫を凝らしたお店をご覧いただくことができました。

学校や学年という大きな集団で協力し、よりよい人間関係を築くための体験的な活動を学校行事と言います。西うきフェスティバルは「学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりする」ことを目的とした学校行事です。大きくねらいが3つあります。

1つは「学校生活の課題を見出し解決するために話し合い、合意形成を図ること」です。代表委員会でどんな西うきフェスティバルにするのか、全学級に大切にしてもらいたいことは何か、について話し合われました。そして決まったスローガンは『とどけ！ 協力と笑顔のアイディア つまった花たばを』です。代表委員の願いのこもった素晴らしいスローガンとなりました。

2つは「主体的に役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い、実践しながら望ましい人間関係をつくること」です。各学級全員が役割をもって仕事をしようとお店の仕事が分担されており、楽しそうに準備に取り組む様子が見られていました。時には、やりたいことがぶつかり、いさかいが起こることもありましたが、お客さんが楽しめるようにする目的のため、子供同士折り合いをつける姿がありました。ここに、人間関係を作る過程が見られ、相手も自分も納得できる案にするという今の社会に求められる力を付けている姿がありました。

3つは「学年や学級が異なる児童とともに楽しくふれあい、交流を図ること」です。子供たちはみんなが楽しめるお店を準備し、当日は存分に各学級のお店を楽しみます。どの学級のお店も子供たちの願いや創意工夫にあふれ、大人では思いもつかないルールややりたい遊びを合体させたルール等など、楽しいものでした。社会の学習から発想を得てゲーム化したお店、キタコンを使って動画でルール説明を流すお店等、学習活動で経験したことや身に付けたことを活用したお店も見られました。

このように、教科学習の他にも、よりよい自分やよりよい人間関係、よりよい社会を育てようとする力を養うため、教育活動を実施しています。

新型コロナウイルス感染症により集団での活動が大きく制限され、教育活動の実施にあたり様々な影響を受けました。オンラインの普及など、これまでの教育活動の学校行事においてもコロナ禍以前に戻すことのみを目指すのではなく、各学校行事のねらいの達成に向けて、一つ一つの教育活動を見つめ直し、子供たちに生きて働く力を付けさせるための取組を進めて参りたいと思います。保護者や地域の皆様におかれましては、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。



【学校閉庁日のお知らせ】

学校教職員の働き方改革の取組として、西浮間小学校では、8月9日（水）～8月18日（金）は学校閉庁日となっております。教職員は出勤しておりません。ご理解ご協力をお願いいたします。